

校長通信 調和

発行
校長 寺島克彦
〒384-0023
小諸市東雲4-1-1
TEL 0267-22-0216

題字 渡邊虚舟

《令和元年度 二学期終業式》(要約)

新しい元号の令和元年を振り返って、皆さんにとってはどんな一年だったでしょうか。

今年は、台風には強いと思われていた長野県もそうではないこと、そして地球温暖化の影響と思われる自然災害を日本国中が、まさに肌で感じた年でした。

本校の関係者にも被災された方がいらっしゃいます。改めて、お見舞い申し上げますとともに、一日でも早い復旧をお祈り申し上げます。

ところで、皆さんはこの「気候変動問題」について、どんな考えを持っていますか。

アメリカのニュース雑誌『タイム (TIME)』が「今年の人」(Person of the Year) に、皆さんと同世代、16 歳のスウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥンベリさんを選んだことが話題になりました。

タイム誌は彼女を選んだ理由について、こう言っています。「気候変動問題は『複雑』でグレタさんにも『魔法の解決策は無い』でしょう。しかし、彼女はこのことについて『世界の姿勢の変化を起こし、漠然とした真夜中の不安を、緊急な変化を求める世界の運動に変えることに成功した』」

グレタさんはタイム誌に、自身の活動について「明日はあるのに、明日がないかのように生き続けることはできない」と語ったそうです。

少し、トゥンベリさんの行動を振り返ってみましょう。

彼女は 15 歳だった 2018 年に、温暖化対策を取らない大人へ抗議するために、学校を休んでスウェーデン議会の前に座り込む「学校ストライキ」を始めました。

その彼女の主張に、世界中の若者たちが賛同し、たった一人で始めたストライキは各地に広がりました。

9 月 20 日に世界各地で開かれた「グローバル気候マーチ」には何百万人もの人たちが参加して、温暖化の取り組みの遅れに抗議したとのことです。長野県内でもその取り組みに触発されて行動した高校生もいます。

反面、皆さんも知っていると思いますが、彼女の発言や、行動に関して非難する大人も多いようです。

「誰か大人が糸を弾いているのではないのか」「本当に気候変動問題、温暖化についてわかっているのか」など、アメリカのトランプ大統領のツイッターでの発言も話題になりました。

でも、こんな反発の意見も、彼女の行動や言葉に多くの人が心を動かされているということには変わりありません。

話は変わりますが、「過去の地球の気候変動に関する極めて貴重な情報が日本の湖にある」とのことです。

それは、福井県の「水月湖」にあります。

水月湖の湖底は、季節ごとの土砂やプランクトンの死骸などが積もって、層状になり縞模様になっています。この縞模様を年縞というのだそうです。しかも、奇跡的に様々な条件が重なり、それが崩れることなく、7 年以上積み重なり、その水月湖の年縞が、考古学や地質学に「世界標準の、ものさし」として貢献しているのだそうです。

さて、気候変動問題に戻ります。本当に、地球の気温は急上昇するのでしょうか。

水月湖の年縞を調べると、世界史で学んだとおり、過去の地球では、非常に激しい気候変動が何回も起こっていること。今から 2 万年前の日本は、平均気温が今より約 10 度も低かったこと。そして、21 世紀の 100 年間で気温が数度から 5 度上昇するという予測はあり得ることがわかるようです。

さらに、もしそうなったら少なくとも地球の北半球の全域を巻き込む、甚大な被害が予測されることが、年

稿の証拠からわかるようです。

地球の氷期が終わったのは、北半球で夏の日差しが徐々に強くなっていく時代だったとのこと。太陽の熱を吸収し、蓄えてしまう、CO₂（二酸化炭素）やメタンなどの温室効果ガスが増えることで気温が上昇することは十分に考えられることであるようです。

さて、このことについて皆さんはどう考えますか。

どのように考えるにしても、「わかんない」と無関心で、フェイクニュースに踊らされるような高校生にはなってほしくないと思います。他人の意見にただ乗っかっているだけでなく、今の世の中に興味を持ち、根拠を持って自分で考えてほしいと思います。どんな些細なことも、根拠が自分の行動についての自信になるし、根拠のある言葉が、他人を動かすのだと考えます。皆さんには是非、真実を見極められる人になってほしいと強く願うところです。

2020年・令和2年も、次世代を担う小諸高校生にとって最高の年になることを期待しています。

新生徒会長に聞く、新生徒会が目指すものは！

令和元年11月の生徒総会で、塚田陽樹・前生徒会長から土屋睦希・新生徒会長にバトンが渡されました。ここ数年さらに活発になった生徒会の伝統を受け継ぎ、新生徒会をどう発展させるのか、土屋新会長に訊きました。

Q：新生徒会では、どんなことをやっていきたいか。

A：土屋会長「生徒会役員選挙のとき、“全校生徒の意見を聞く”と公約しました。これまでもあった意見箱設置ではなく、全クラスにアンケートを行いたい。また、文化祭、クラスマッチの日程等も検討したい」

Q：どんな生徒会にしたいのか。

A：土屋会長「全校生徒ひとり一人が積極的に協力し、参加できる生徒会にしたい。生徒ひとり一人の意見を受け止め、少数の違う意見も放っておくことはしたくない。全員参加の生徒会を目指したい」

今年の流行語大賞は“ONE TEAM”でした。土屋会長の目指すのは正に、このワンチーム、誰も排除することなく全校生徒が関われる生徒会であるようです。新生徒会のさらなる飛躍に期待が高まります。



（関副会長、中村副会長、土屋会長）

新人戦・東信大会準優勝！ 男子バレーボール部

目標高く、誰からも認めてもらうチームを目指す！！

令和元年度新人戦東信大会では、男子バレー部が準優勝、女子バレー部も7位で県大会に駒を進めます。男女バレー部の目覚ましい活躍ぶりが注目を浴びています。益々期待される両部活。その成長の陰にはどんな努力があるのか、男子バレー部を探ってみました。

Q：どんな部活動を目指すのか。

A：昨年より高い目標（県ベスト4以上）を設定した。昨年より苦しいと思うが、皆で頑張れる部活にしたい。（内藤）・強い部活、関係者に応援していただける部活にしたい。（山崎）・日常生活に手を抜かない。「小諸になら負けてもしようがない」と思ってもらえる部活にしたい。（有賀）

Q：日常生活の手を抜かないとは。

A：高校生として当たり前のことをするという。こと。（内藤）・挨拶は校内はもとより、地域の皆さんとも。

授業を大切にする。（山崎）・7月から部員全員で英語の学習ノート（30分）に取り組んでいる。（有賀）部活の後の自宅学習、たとえ30分とはいっても毎日はずっときつくないですか。との問いに、三人からは「最初はきつかったけど、力になっていることが実感できているので続けられる」「勉強でわからないところがあると、部活内で教えあっている」とのこと。

素敵な笑顔で答えてくれた三人。まさに、「志高く問題意識を持って労を惜しまない」こもろ高校生を体現していると感じました。男子バレーボール部の益々の活躍に期待します！



（有賀部員、内藤部長、山崎キャプテン）